

# 女性がんサバイバーの不定愁訴に 柴胡加竜骨牡蛎湯が有効であった症例

慶應義塾大学医学部 漢方医学センター（東京都） 堀場 裕子

女性のがんサバイバーは、手術や術後の追加治療の影響でホルモンバランスが大きく乱れることから不定愁訴を有する患者さんが多い。そのため、患者さんが健やかに過ごしてゆくために漢方治療は不可欠である。がんサバイバー患者さんの腹診の特徴として、胸脇苦満、腹部動悸のサインが多く見られることから筆者は柴胡加竜骨牡蛎湯を選択することが多い。本稿では、女性がんサバイバー患者さんの不定愁訴に有効であった3症例を提示し、不定愁訴に対する漢方治療について考察した。

**Keywords** 柴胡加竜骨牡蛎湯、女性がんサバイバー、更年期症候群、胸脇苦満

## はじめに

女性に特有の乳がん、子宮がんの罹患数はそれぞれ第1位と第5位である。またそれぞれの5年生存率は90%、80%を超えており、女性がんサバイバーは非常に増えていると考えられる。そんな女性がんサバイバーにとって、その後長く続く人生を健やかに過ごしていくことは容易ではない。なぜなら、がん手術や術後の追加治療の影響でホルモンのバランスが大きく乱れるからだ。実際に私がいる漢方外来にも女性がんサバイバーの患者さんがさまざまな不調で受診されている。がん治療後に続く人生を健やかに健康で送れるようにサポートするのに漢方治療は欠かせない存在だと思っている。

## 柴胡加竜骨牡蛎湯を選択する理由

女性がんサバイバーに限らず、不定愁訴で悩む女性は多く、肩こり、冷え、むくみ、いらいら、不眠、肌荒れ、便秘など症状も程度も多彩である。中でも多い主訴がいらいらやのぼせであり、ホルモンバランスの乱れが原因でおこる更年期症候群の症状である。更年期症候群で頻用される処方として当帰芍薬散、桂枝茯苓丸、加味逍遙散が非常に有名であり、さらに温経湯や女神散なども処方されることがある。

漢方薬を選択する場合、問診はもちろん、腹診は重要である。がんサバイバーの患者さんの腹診では、胸脇苦満と腹部動悸というサインが見られることが多くある。胸脇苦満は季肋部から脇腹が膨満し、圧迫感があって苦しい状態

あるが、腹診の際にこの部分を按压すると抵抗があり、患者さんは圧痛を訴える(図1)。胸脇苦満が認められた場合は、柴胡という生薬を含む漢方薬を使用する際の重要な目標となる。とくに柴胡と黄芩の2味を主役とした柴胡剤のグループから選択するとよい。その中でも比較的腹力強く腹部動悸も触知された時には柴胡加竜骨牡蛎湯がよい適応になる。腹證奇覽の柴胡加竜骨牡蛎湯のイラストには胸脇部の広範囲の張りや膈上の腹部動悸が描かれている(図2)<sup>1)</sup>。クラシエの柴胡加竜骨牡蛎湯は動悸、不安、不眠、神経症、更年期神経症などに適応がある。また少量の大黄が含まれているため便秘にも効果がある。薬徴には大黄は集結している毒を下す、と記載されている<sup>2)</sup>。身体に溜まっている不要なものを大便として排出する作用としてとても重要な生薬と考えている。下剤としての生薬のイメージが先行するが、大黄には下剤としての作用だけではなく、向精神作用を持つことも知られている<sup>3)</sup>。

図1 胸脇苦満

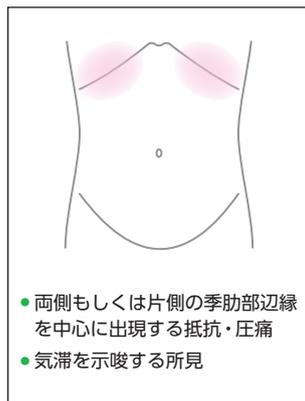


図2 腹證奇覽の柴胡加竜骨牡蛎湯



## 実際の症例

### 症例1 39歳 女性 主訴：いろいろ、ほてり

【既往歴】 38歳で右乳がんにて右乳房部分切除を施行した。追加治療としてホルモン治療を始めたところ月経が停止し、いろいろやほてりが出現した。しばらく様子を見ていたが改善傾向がないため、漢方治療を希望し受診された。

【問診】 月経痛、乳がん術後から便秘傾向(適宜下剤内服)、肩こり

【腹診】 腹力やや実、胸脇苦満、腹部動悸

【経過】 初診時にクラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒 6.0gを3包/日で処方した。2週間後、便通が良くなった。1ヵ月後、いろいろとほてりが軽減した。

### 症例2 50歳 女性 主訴：ほてり、不眠、いろいろ

【既往歴】 もともと月経困難症にて桂枝茯苓丸を内服中であつた。49歳で子宮体がんと診断され子宮全摘と両側付属器切除術を施行した。人工閉経しほてりが出現し、ほてりのため寝つきが悪くなり、頻回に目が覚めるようになった。眠りが特に悪いと翌日のいろいろやほてりが悪化する。

【腹診】 腹力中間、胸脇苦満、腹部動悸、左右の瘀血の圧痛

【経過】 桂枝茯苓丸にクラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒 6.0g/日を追加した。3週間後、寝つきと中途覚醒が改善した。よく眠れるようになり、いろいろやほてりが軽減した。

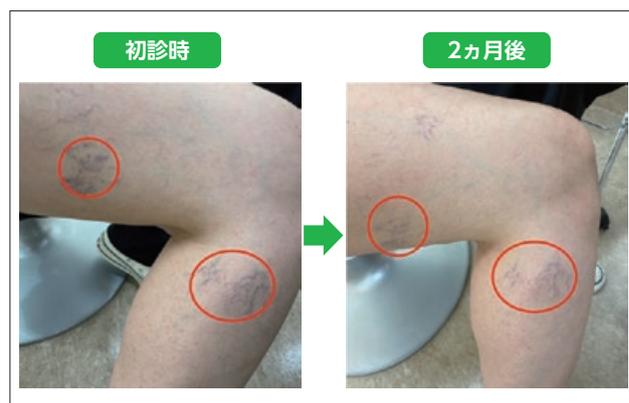
### 症例3 63歳 女性 主訴：頭痛、動悸、高血圧

【既往歴】 42歳時に卵巣がんにて子宮全摘+両側付属器切除術を施行した。その後ホルモン補充療法を行ったが、10年を区切りに一旦終了した。ホルモン補充療法を終了して3年目頃から週1回程度の頭痛や動悸が出現し、血圧が少しずつ高くなってきた。血圧は平均130/90mmHg台である。降圧剤の内服を勧められたが漢方治療を希望し漢方外来を受診した。

【経過】 便秘の自覚はなかったがクラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯エキス細粒 6.0g/日を処方した。すぐに便が多く出るようになった。1ヵ月後頭痛と動悸の頻度が減った。3ヵ月後、血圧が平均120/80mmHg台で若干下がってきた。現在も同処方を継続内服中である。

症例3の下腿の写真を図3に示す。赤丸で囲んだのは細絡と言われる血流が悪い時に現れやすい漢方医学的な所見である。柴胡加竜骨牡蛎湯により、便通が良くなり血圧が低下したことから血流が改善したことが分かる。それに伴い下腿の細絡も範囲が狭くなり目立たなくなっている。

図3 症例3



クラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯の効果又は効能は「精神不安があつて、どうき、不眠などを伴う次の諸症：高血圧の随伴症状(どうき、不安、不眠)、神経症、更年期神経症、小児夜なき」とされている。

神経症にも有効であり、症例2のように不眠に対しても効果がある。

柴胡加竜骨牡蛎湯は黄芩が含まれている。黄芩は肝機能障害が起こるリスクが他の生薬に比べて高いため、定期的な採血で異常がないことを確認しておく心安だ。

なお、提示した症例において本剤に起因すると思われる副作用は見られなかった。

## さいごに

大塚敬節先生は「漢方診療三十年」の中で肩こりやめまい、帯下、便秘などで悩む女性を柴胡加竜骨牡蛎湯で治療している。また別の女性の産後のめまいや動悸なども柴胡加竜骨牡蛎湯で改善していることも記載している<sup>4)</sup>。今回は女性がんサバイバーの症例のみを提示したが、がん以外の疾患や男性にも処方することは多くある。月経困難症や更年期症候群、ストレスによるいろいろや不眠などに対して、加味逍遙散や桂枝茯苓丸、抑肝散などで症状の改善が不十分である場合などがあるかもしれない。そんな時はぜひ柴胡加竜骨牡蛎湯への変更を検討していただくと良いのではないだろうか。

## 【参考文献】

- 1) 腹証奇覧 稲葉文礼
- 2) 薬徴 吉益東洞著 たにぐち書店 p.94
- 3) 西岡五夫: 大黃の向精神作用. 日東医誌 46: 631-644, 1996
- 4) 漢方診療三十年 大塚敬節著 創元社